



第4回

美しい緑と花の町・ルーイエナ町民訪問記

今年5月29日から6月2日まで5日間、ラトヴィア・ルーイエナ町を訪れた町民交流訪問団(36人)の皆さんの訪問記を毎月紹介しています。

日本の茶道に興味津々

旅行前の顔合わせの席で、お茶も紹介してみましようか、という話になりました。「ついでに日本伝統の和服も着てみせてあげよう」。話は盛り上がりました。

お茶の紹介とはいつでも、どの程度のことをやったらいいだろう

か、とちょっと考えました。「お道具類を送ったり、持っていったりするのも大変」と思い、今回はどこへでも持ち運びの出来る茶籠袋を1つ持っていくことにしました。「現地ではお湯を沸かしてもらうだけでいい」と…。

当日はわがほうのきれいだころが着物姿で勢ぞろいしました。

茶わん、茶杓(ちゃしゃく)、茶



▲柄杓を忘れたので、料理用おたまでお湯くみを代用(中央が筆者の佐崎さん)

筥(ちゃせん)、茶巾、棗(なつめ=抹茶を入れるために用いるうるし塗り木製容器)と、一式入った茶籠(旅持ちともいう)をお見せて「これでお湯さえあれば、どこでも、野原でもお茶を楽しむことが出来ますよ」と紹介しました。

お湯は文化鍋で用意してくれました。うっかり柄杓(ひしゃく)を持ち忘れたので、おたまで代用しまし

た。「シヤカシヤカ」と茶筥を振ってお茶をたてるのがおもしろらしく、皆さん机の前に集まって挑戦、奮闘されていました。

ところがどれほど上手に「シヤカシヤカ」とやっても、日本でのようにクリ

ーミーにあわ立ってくれないのです。「どうしてだろう?」。後に水の硬度の違いではないだろうかと気がきました。それでもルーイエナの皆さん、東川のきれいだころの皆さん、和気あいあい楽しんでくれたようです。

これからルーイエナでは建物を改造して日本記念博物館をつくる予定とか。茶室とまではいかなくとも、ぜひとも和室を作ってもらって、またの機会には掛け軸、風炉釜、水差しくらいは持って行って、茶の雰囲気



▲お茶をたてるお手前に挑戦

気を伝えたいものと思います。そして東川自慢の名水も持参して…。ご協力いただいた皆さん、ありがとうございました。

佐崎 光子さん



▲グラトキンス議長(町長)もなれない手つきで一服